

# 青少年防災キャンプ事例発表会

平成 29 年 1 月 27 日（金） 愛知県自治センター

趣 旨：防災キャンプの成果を普及するため、基調講演や事例発表を行う会を開催する。

参 加 者：80名（市町村行政関係者、学校関係者、防災団体等）



## プログラム

13:00 開会（生涯学習課長あいさつ）

13:10 基調講演

「地域と連携したこれからの防災教育」

講師：滋賀大学教育学部教授 藤岡 達也 氏

- 東日本大震災以降、「生きる力」を育む防災教育の取組は進んでいる。しかし、学校教育だけで子供たちを守るには限界があり、安心・安全な地域づくりのためには、地域と学校の連動した取組が不可欠である。
- いくら学校で避難訓練をしても、子供が学校にいる時に自然災害が発生するとは限らない。そもそも子供が学校にいる時間は長くない。防災教育は、子供たち自身が災害時にどう判断できるかが課題であり、発達段階に応じた防災教育が必要である。
- 防災（災害安全）は、生活安全、交通安全を含む安全・危機管理の基本となる。  
「 最悪を想定  慎重に  素早い対応  誠実に  組織的に」これはまさに防災管理への教訓。
- 大きな自然災害が起こる可能性はあるが、日本列島は自然の恩恵を受けている。子供たちの命を守る防災教育とともに、これから必要とされるのは、地域の良さや自然の二面性（自然の恐さ、恵み）を重視した防災教育の展開である。防災キャンプの意義はここにある。  
「 たくましく（楽しく）  地域に根ざして  積み重ねて  テーマをもって  とともに取り組む」
- 今後は防災計画を通して地域と学校を捉え直すことが必要。求められるのは、学校と地域のパートナーシップである。

14:20 シンポジウム 「地域を活かした『生きる力』を育む防災キャンプ」

### ▽事例発表

□半田市岩滑地区防災キャンプ ～見て、聞いて、体験しよう～ 一泊二日避難所体験講座～  
半田市立岩滑小学校 教諭 赤根 進治 氏

□西尾市一色中部小学校区防災キャンプ ～中小防災リーダーになろう～  
西尾市立一色中部小学校 教諭 本田雄一郎 氏

### ▽意見交換 コーディネーター 藤岡 達也 氏

パネリスト 赤根 進治 氏（半田市立岩滑小学校教諭）  
廣江 好矩 氏（半田防災リーダー会）  
本田雄一郎 氏（西尾市立一色中部小学校教諭）  
久保田芳道 氏（一色防災ネットワーク代表）  
佐藤 のぶ 氏（県防災局防災危機管理課主査）  
富田 正美 氏（県教育委員会生涯学習課長）



2市の事例発表内容を基に、「地域を活かして子供たちの『生きる力』をどのようにして育むのか」をテーマとして、主に「今回の事業を学校現場にどのように生かしていくのか」「子供たちを含めての地域連携」という点について、意見交換がなされました。パネリストや参加者から「避難所として地域の拠点となる学校の重要性が再認識できた」「学校と地域の連携の意識が高まった」「避難所体験では、子供たちが守られるだけでなく、自分で何ができるのかが重要だと思う」等、様々な意見が出されました。

最後に、藤岡先生より、「体験活動である防災キャンプは、今日重視されている持続可能な社会を築くESDのねらいとなる、自然と人間、人間と人間、人間と社会の繋がりの大切さを実感できるものであり、自助・共助・公助の意義がある」と、総評がありました。

16:00 閉会（生涯学習課主幹あいさつ）

発行 平成29年3月

愛知県教育委員会生涯学習課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号 電話 052-954-6749

平成28年度文部科学省委託事業「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」

# 愛知県青少年防災キャンプ 事業報告書



県教育委員会では、平成24年度から宿泊を伴う避難所体験を組み込んだ防災教育プログラムをモデル事業として実施しています。防災教育を通じて、子供たちの体験活動の機会を作るとともに、学校・家庭・地域・行政が連携することにより、地域の絆を構築し、家庭や地域の教育力の向上を目指してきました。

平成28年度は、半田市、西尾市に事業を委託しました。自主防災活動が活発な2市において、各地域の特性や実情を生かし、避難所運営におけるリーダー育成と被災時に必要とされる「地域のつながり」を意識したプログラムを作成し、地域全体で防災キャンプを実施しました。

1月には、その成果と課題を県内市町村の担当者や学校関係者、社会教育関係団体やボランティア団体の方々と共有し、これからの防災教育のあり方を考える事例発表会を開催しました。



愛知県

愛知県教育委員会



# 半田市岩滑地区防災キャンプ

～ 見て、聞いて、体験しよう 一泊二日避難所体験講座 ～

平成28年7月22日（金）～23日（土）半田市立岩滑小学校

趣 旨：これまでも活発に自主防災活動が行われていた岩滑地区において、本事業を契機に行政や多数の地域住民との連携をより確実なものとするとともに、小学生とその保護者を対象に「自分たちにできること」を考えることで行動する力を養い、地域全体の役割意識を高める。

参加者：120人（岩滑小学校児童43人・保護者18人・地域住民54人・高校生5人）

## 日 程

7月9日	防災キャンプ事前説明会
7月22日	15:30 通学路危険箇所マップ作り
	17:00 炊き出し体験、応急給水栓の確認
	18:40 応急処置法講座（三角巾・ロープを使用）
	19:40 濃煙体験（煙からの逃げ方を学ぶ）
	20:30 防災クイズ
7月23日	21:00 居住スペース作成体験、就寝
	6:00 起床、運営委員会、ラジオ体操
	6:20 朝食（食糧配分の検討）
	8:00 放水訓練・防火倉庫見学
	9:30 ふりかえり活動・意見発表
10:30 解散	
11月5日	防災講演会



煙の特性や避難方法について学ぶ

放水訓練

## ○事業成果

児童・保護者が、地域の方と共に初めて災害時の避難所となる学校での防災キャンプに取り組んだことで、地域の自主防災活動内容を知り、自分たちにできることを考えることにより地域での役割意識を高めることができた。

また、地域にとっても学校と地域との繋がりを持つことで、地域での活動を知ってもらい、理解を深めることができ、地域活動の新たな担い手を得る機会となった。

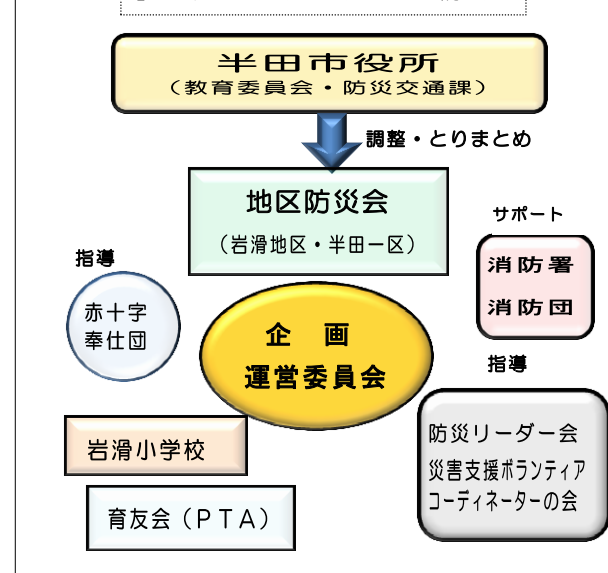
## ○今後の課題

より充実したプログラムとするためには、防災部局、消防署等から広く意見を聞き、検討することが必要。また、体験活動では、その目的を児童にも理解できるよう工夫し、児童の自立性を持たせることが重要である。

## ○参加者の声

（児童）「避難の仕方や煙からの逃げ方を知ったので、もし災害が起っても大丈夫という自信がついた」「物がある場所、使い方が分かった。家に帰ったら学んだ事を家族に話したい」  
 （大人）「避難所で生活することは、体にとっても負担がかかることがわかった」「水汲みや煙体験、話でしか知らなかったが実際に体験できて役に立った」

## 【地域プラットフォームの構成】



# 西尾市立一色中部小学校区防災キャンプ

～ 一中小防災リーダーになろう ～

平成28年9月24日（土）～25日（日）西尾市立一色中部小学校

趣 旨：被災時に重要な避難場所となり、防災拠点となる一色中部小学校において、実際の被災を想定した実地訓練を行うことで、子供たちの防災意識を高めるとともに、避難所運営の能力や技術を学び、地区全体の防災意識の向上を図る。

参加者：88人（一色中部小学校児童44人・地域住民17人・職員5人・教師及び保護者22人）

## 日 程

9月8日	5年生防災授業（防災マップ作り、実地調査）
9月24日	14:00 受付
	14:35 オリエンテーション
	15:00 防災訓練 テント設営・避難物資在庫確認・簡易トイレ組立て・救助訓練 トリアージ練習・防災すごろく・VRスコープ体験・食事準備等
	18:50 夕食
	19:15 夜間移動訓練、救助訓練
9月25日	21:00 避難所宿泊訓練、簡易ベッド作成、就寝
	6:00 起床、ラジオ体操、朝食
	7:45 反省会
	9:00 校区内防災訓練 （児童は前日学習した訓練の内容を参加者に指導）
	10:30 解散
2月6日	全校防災訓練



初めてのVRスコープ体験

↑ AEDでの心肺蘇生訓練

空き缶を用いての飯ごう炊飯訓練

## ○事業成果

一色中部小では、平成27年度から全校児童を対象とした防災授業に力を入れており、今回の事業は貴重な機会であった。また、地区自主防災会も、一色中部小の体育館で避難時運営を行ったことがなかったので経験を積む絶好の機会となった。

また、町内会や校区内地域役員と小学校職員、PTAの顔繋ぎができたことが一番の成果であった。町内会にとって、小学校への敷居が低くなったようである。

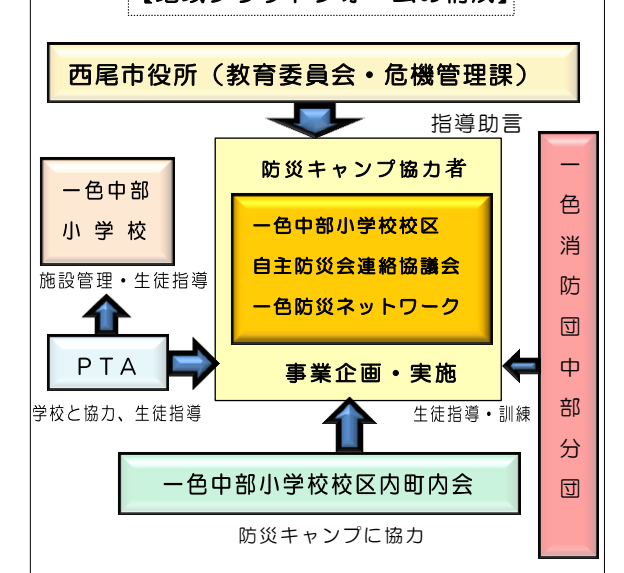
## ○今後の課題

平日日中の被災時を想定すると、大人は働きに出ており、地区にいないため、子供たちが重要な防災の担い手となる。今後は子供たちを働き手とした被災対応方針を検討し、子供のうちから防災に興味を持たせるよう、継続的に取組を進める事が必要である。

## ○参加者の声

（児童）「避難所になることは知っていたが、3,000人も避難者を収容することに驚いた」「小学校の中には段差が多く、災害弱者用に対応できていない。段差解消の要望をしよう」  
 （大人）「子供は有用な人材。大変助かる」「子供は訓練中も笑顔でいる。実際の避難所運営では心の支えになるのではないか」

## 【地域プラットフォームの構成】



## 成果と課題

平成24年度から始まった防災キャンプ推進事業は「青少年の体験型防災教育」と「地域の絆づくり」を目的に、各地域において多様な団体、行政、学校、家庭が連携をしながら実施してきました。その中で「学校・行政・地域との連携」の必要性が確認されるとともに、「連携」の難しさが課題として挙がってきました。今年度は、自主防災会が中心となり、実際に避難所となる2つの小学校において、初めて地域住民と児童・保護者で宿泊を伴う避難所運営を実施しました。その結果、両地区共に、地域と学校、教育委員会と防災行政が繋がる絶好の機会となりました。

このような、貴重な体験活動である防災キャンプの取組を、県内の他地域、学校にどのように広げていくかが、今後の課題です。